

Ecology

美濃加茂の 自然界の異変



ツマグロヒョウモン（タテハチョウ科）は、近年の温暖化の影響を受け、勢力を北に伸ばしているといわれています。

温暖化により自然界に、
異変が起きていることも事実です

美濃加茂自然史研究会 安藤志郎さん

地球温暖化がいわれていますが、この地方の自然界でも何か変化はありますか

この地方の気温の上昇が、地球温暖化の影響なのかヒートアイランド現象の影響なのか断定はできませんが、確かに異変は起きています。

特に、この10年ほど前から、いろんなことが起きています。例えば、「ツマグロヒョウモン」というチョウは、その代表と思います。

このチョウは、暖かい地方に生息するチョウの仲間で、越冬が困難なため、この地方で見ることがありませんでした。

しかし、今では市内の道路沿いや民家の庭先で見ることが出来ます。「このことから、冬の気温がかなり高くなってきていると思われる。」

「ナガサキアゲハ」も同様です。名前から分かるように、もともとは、長崎県などの温暖な地方に

しか生息しなかったチョウですが、近年、この地方でも個体数は少ないですが、見ることができるようになりました。

植物の中にも、異変は起きています。「オオカナダモ」という植物は、理科の実験材料によく使われる植物です。「この植物も、越冬はできませんでした。しかし、今では、木曾川などで多く見ることが出来ます。昔、理科の実験でこの植物を使うときは、遠くまで採取に出かけたものです。」

少し話を広げますと、溪流の魚の生息域にも異変が起きているといわれています。

例えばアマゴは、イワナよりも水温の高い下流域に生息す

るといわれていますが、最近では同じ水域に生息するようになり、「きつと、溪流の水温の上昇が影響しているのではないか」と友人が話していました。

このように、温暖化による自然界の異変が起きていることも事実です。しかも、よその国の話ではなく、身近なところから起きている。これからも、注意していくことが必要だと思います。



オオカナダモ。湖沼や川に生える沈水性の多年草。雌雄異株であるが、日本には雄株だけが帰化し、栄養繁殖で増えています。

